



▲第1回技術研修会(東彼杵町中岳郷)

5 2026  
No.100

## 第1回技術研修会

～伐木の基本とかかり木処理～

## 長崎市民の森植樹祭

～ながさき楽しみの森づくり会～

## 里山林活性化による多面的機能 発揮対策交付金事業

～申請受付が始まりました～

## 森のキセキ

～タケノコ～



# 第1回技術研修会 ～伐木の基本とかかり木処理～

令和8年5月16日（土）、第1回技術研修会を開催しました。研修場所は、東彼杵町中岳で活動している「岳ん杜まもり隊」さんの整備地で、参加者は同団体のほか、東彼杵町や大村市で森林整備活動を行っている「ひびき里山保全舎」「長崎竹活Labo」「ソノギシンリンカタリスト」、また長崎市からは「放置竹林拡大防止PJT」、森林整備をこれから始めたいという一般の方にもお越しいただきました。今回の研修では「伐木の基本」と「かかり木処理」についての講話と実習を行い、同時に地域の団体間の交流も目的として実施しました。

最初に、伐木に必要な道具や機材の紹介、装備についての説明を行いました。参加者は、初めて見る道具もあったようで「何のために使うのか」など質問が相次ぎました。次に木の直径や高さの測り方の説明、伐木の基本である「受け口」「追い口」の作り方を資料を見ながら説明し、「ツル」がどのような役割を果たすのか、あらかじめ伐倒した見本を見てもらいながら説明しました。伐木実習の前に、一連の流れをデモンストレーションとして実施。安全面なども再確認していただき、各班に分かれ伐倒の準備をしました。各班では対象の木を観察し、木の高さや傾き、周辺の状態等を確認し伐倒方向を決めます。それから退避場所の認と足場の整理を行いました



道具や機材の説明



ツルの説明



各班での伐木



ロープを使ったかかり木処理

4班に分かれそれぞれ伐倒を行いました。ほとんどの木が「かかり木」になりました。様々な視点から伐倒方向の確認をして正確な受け口・追い口を作っても、混みあった森林の中では「かかり木」になってしまうことは少なくありません。このかかり木を安全に無理なく処理するために、ロープをどのように掛けるか、またフェリングレバーやチルホールなどの道具の使い方を実習していただきました。参加された方からは、「学びが多かった」とのご意見をいただきました。これからも安全で楽しい整備を目的とした研修会を開催していきます。

# 長崎市民の森植樹祭 ～ながさき楽しみの森づくり会～

令和8年4月11日（土）快晴の下、森林ボランティア団体「ながさき楽しみの森づくり会」さん主催の植樹イベントが開催されました。同団体は長年にわたり長崎市民の森で森林整備を行い、緑の募金「みんなで森づくり事業」を活用した植樹活動も行っています。当日は長崎市長をはじめ、約70人の市民が参加しその活動の輪に加わりました。はじめに市長によるアセビの記念植樹が行われ、その後参加した皆さんによりシャクナゲの苗木が植えられました。



作業後には、山の恵みを楽しむタケノコ掘りも行われ、お土産を手に、楽しい一日となりました。

年ごとに花を増やしていくこの場所は、散策道も憩いの場となっています。彩り豊かな森に皆さんも足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

## 里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金事業 申請受付が始まりました

森林の多面的機能を持続的に発揮させていくためには、地域住民が協力して里山林等の保全活動や森林資源の利活用を実施していく体制を整えることが不可欠です。地域住民が中心となった民間協働組織（活動組織）が実施する、地域の森林の保全管理等の取組に対し交付金事業として支援をしています。支援を検討されている方は下記問合せ先までご連絡ください。

### 【支援を受けるには？】

- ・地域住民、森林所有者等、地域の実情に応じた方（3名以上）で構成される活動組織の設立が必要です。
- ・支援対象となる活動を行う森林は、活動を行う時点で森林経営計画が策定されていない0.1ha以上の森林です。
- ・申請時に3年間の活動計画を記した活動計画書の提出が必要です。
- ・毎年度の安全講習・モニタリング調査の実施が必要です。

問合せ先  
長崎森林・山村対策協議会  
TEL:095-895-9119 FAX:095-895-8654  
HP:<http://nagasaki.shinrin-sanson.jp/>  
e-mail:[nagasaki@shinrin-sanson.jp](mailto:nagasaki@shinrin-sanson.jp)

ホームページ  
QRコード



# 森のキセキ . . . タケノコ . . .

## 軌跡

春になると、県内各地の直売所には立派なタケノコが並び始めます。特に長崎市の茂木地区や大山地区など県南地域の温暖な気候で育つタケノコは、癖がなく柔らかいのが人気です。

かつて竹は、食すこともでき、成長するとその強靱さと柔軟性に富んだ性質から暮らしを支える貴重な資源として重宝されてきました。しかしプラスチック等の普及により竹林は放置され、今では森を侵食する「竹害」が深刻な課題となっています。竹害の背景には、放置されたことだけではなく、タケノコの驚異的な生態が理由としてあげられるようです。タケノコの成長速度は植物界でも群を抜いており、最盛期には一日に1メートル以上も伸びることがあります。これほど急成長できる理由は、竹の節一つ一つに細胞分裂を行う「成長点」があるためだそうです。他の樹木が根や茎の先端から伸びるのに対し、竹は全箇所節が同時に伸びるため急成長できるのです。

また、収穫量には表年（おもてどし）と裏年（うらどし）という周期があると言われています。これは地下茎でつながった竹林全体が、エネルギーを調整しているためだとも言われています。たくさん収穫できた翌年は、体力を回復させるために休むという、自然界のバランスが働いています。

筆者は今回、タケノコ好きな息子に竹害やタケノコの話をしました。竹林が放置されている現状は知っていましたが、タケノコを食べることが生態系を守っていること、かつて竹は生活に必要な不可欠な存在であり、急成長する竹はその需要と供給がマッチしていたことを知り、「便利な世の中になっているけど、もったいないこともしているね。」と話していました。私達にできることは、まずこの現状を次の世代に伝え、考えてもらうことではないでしょうか。身近な資源を大切にしていきたいものです。



### センターからのお知らせ

センターのHPページは→



センターでは森林ボランティア活動に必要な道具や機材を貸し出しています。薪割り機やチップパー等大型の機材もレンタルできますので、希望される団体はセンターまでお問合せください。 長崎県森林ボランティア支援センター TEL：095-895-8655